

## 映像教材で紹介された ルワンダの水事情



自宅近くにある公共の水くみ場。日本の子どもたちは、自宅に水道がないことに驚く。



10分かけて水くみ場まで歩く村落部の子どもたち。

「ルワンダ×水」をもっと知りたい方  
「3分で学ぶ世界」もあります！

ほかの途上国の現状や課題、解決への取り組み、現場での体験なども。JICA海外協力隊が等身大目線で3分以内で紹介しています。



【コチラから】

(リンクは2021年3月末まで)

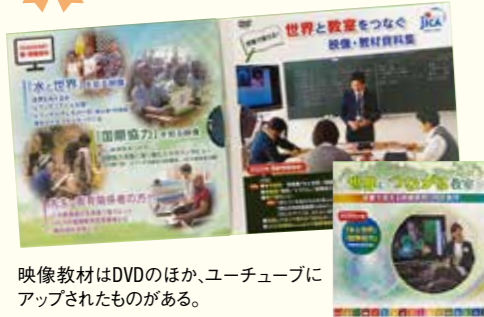
## 水をめぐる世界の現状と 国際協力について学ぼう！

JICAでは教育現場で活用できるように、途上国で培ってきた知見や経験を通して世界の現状や課題、国際協力について紹介する冊子教材と映像教材を作成している。水をテーマにした「水と世界」「国際協力」もその一つだ。

「水は世界の誰にとっても必要不可欠なもので、国境を越えて世界をめぐらぬ大切な資源です。日本に暮らす私たちにとって、水は蛇口をひねれば出てくる当たり前の存在ですが、世界は必ずしもそうではありません。アフリカのルワンダの現状を通して、水がとて貴重な現実を子どもたちに学んでもらうことが教材のねらいです。また教材は、予備知識がなくてもわかるように作られており、途上国へ行ったことのない先生も活用できます」とJICA地球ひろばの村上稔嗣さんは話す。

地球規模で考える水の循環、ルワンダの紹介とその国で暮らす子ども一日、海洋プラスチックごみなど、水をめぐる課題や水環境分野で国際協力活動に取り組む人々などを複数の映像にまとめている。映像は複数本に分けられているので、授業の目的に合わせて選ぶことができる。子どもたちが身近な水をきっかけに世界の課題を「じぶんごと」として考えられる授業や、国際協力の取り組みから多文化共生へと意識を高める授業など、いろいろな切り口がある。子どもたちが世界に向き合い、自分を見つめ直すヒントになるはずだ。

### 消費者教育教材資料表彰2020 優秀賞を受賞



映像教材はDVDのほか、YouTubeにアップされたものがある。



JICA地球ひろば  
村上稔嗣  
(むらかみ・じょうじ)さん

### 授業で使えるショート映像集は コチラから！



### JICAの教材を活用したい方は コチラから！



世界「国際協力」の映像教材を使った講座を受け持った。近藤さんは16年の教師海外研修でエチオピアを訪れ、以後継続的に国際理解・開発教育を実践している。今年からJICA中部・開発教育ナビゲーターとなり、中部地方での開発教育の推進に努めている。「夏休みでも外に行けない子どもたちに向けて、世界の課題やSDGsについて興味を持ってほしい」と思い引き受けました」と近藤さん。講座ではSDGsを通して世界の課題を知ろうという呼びかけから始め、映像教材を活用して地球上の水の循環やルワンダの

現状を説明した。「国際協力やSDGsについて何も知らない子どもたちが、テーマを身近なものとしてとらえ、学ぶことがおもしろいと感じてもらうためには、現場や関わっている人々の声を届けることが最適です」と映像の力を感じている近藤さん。子どもたちの興味をぐっとつかめるため、他のテーマのJICAの映像教材も学校の授業で活用している。とくに低学年の子どもたちには効果的だと感じている。映像教材をはじめとするJICAの教材を開発教育・国際理解教育の実践に役立ててほしい。

\*2 開発教育の推進と、JICA開発教育支援事業の情報発信を行う。開発教育の裾野拡大を目的にJICA中部に設置した制度。

## 世界につながる教室⑫

# 映像の力で、興味を引き出す

## 授業で使える映像教材～「水と世界」「国際協力」～

JICAでは、学校での国際理解・開発教育に活用できる多数の教材を作成・提供している。2020年3月には水をテーマにした「水と世界」「国際協力」の映像教材が加わった。実際に授業などで活用したお二人の先生に話をお聞きした。

### 地元テレビ局の番組で SDGsについて講義



津島市立東小学校 教諭  
近藤勝士(こんどう・かつし)さん

番組でSDGsについて講義を行う。

### ルワンダと リモートでつなぐ



上：ルワンダのJICA事務所とインターネットでつなぎ現地の様子を学ぶ。  
下：映像教材でルワンダの水事情について学ぶ児童たち。



奈良市立都祁小学校 教諭  
中陽佑(なか・ようすけ)さん

学校で国際理解・開発教育を実践している先生が、「便利」「使いやすい」と活用しているのが、ウェブサイトに「JICA地球ひろば」からアクセスできる教材だ。なかでも映像教材は人気が高く、コロナ禍の中でオンライン授業の増加にもないアクセス数が伸びている。国際協力・SDGs、難民、イスラム、教育というテーマの映像教材に加え、新たに水をテーマにした映像教材が完成し、活用できるようになった。

### 映像のリアリティで現地を知る

奈良市立都祁小学校で英語を教える中陽佑さんは、2019年、JICAの教師海外研修でルワンダを訪れた。同国でJICAの水分野の協力で活動している方の話をうかがい、灌漑施設の建設現場を訪ねた。その経験を生かして4、5、6年生の外国語の時間(全11時間)で水をテーマに授業を行った。

授業の導入部分で、水の循環やルワンダの国紹介、ルワンダの子ども的一天を取り上げた映像教材を見せた。「子どもたちは映像に興味津々でとても集中して見ていました。現地の人々の表情なども伝わり、ルワンダの風景や暮らしをリアルに受け取ることができたと思います」と中さんは映像教材の利点を話す。「水と世界」「国際

### 学ばおもしろさを 映像教材で伝える

愛知県津島市では、コロナ禍の中で自宅での時間が増えた地域の子どもたちに向けて、地元のテレビ局が「夏休みの自由研究講座」という番組を作ることになった。地域の人や小・中学校の先生が、それぞれ夏休みの自由研究の参考になる授業を行うもので、津島市立東小学校の教諭、近藤勝士さんは、SDGsをテーマに「水と世

協力」の教材では複数の内容が用意されているので、授業の意図に沿ったものを選ぶことができ、使い勝手もよかったという。映像を活用した授業を経て、JICAのルワンダ事務所とインターネットでつないだ2時間の授業を実施。子どもたちは映像を見て感じた疑問点について、現地で働くJICAスタッフに質問しながら水事情を学んだ。「子どもたちは水について、じぶんごと」としてとらえられるようになりました。最後にまとめたイメージマップ(キーとなる単語からイメージされる言葉をどんどんつないで図式化するもの)や授業の振り返りはとても内容が充実していて、彼らの視野が広がったことを感じました」と、中さんは授業の手応えを感じていた。

\*1 国際理解・開発教育に関心を持つ教職員を対象に国内・海外の研修を行い、帰国後、経験を生かした授業実践の取り組みを支援するJICAの事業。